



食育ひろば



ことわざは、古くから言い伝えられている教訓や知識、戒めなどを短い言葉で表したもので、私たちの日常生活の中でずっと使い続けられてきた言葉です。今回は食べ物にまつわることわざについてご紹介します。

豆腐に鋸(かすがい)



手ごたえがなく
効き目がないこと

由来:かすがいとは2つの木材をつなぎとめるために打つコの字型の釘のことで、豆腐に打ち込んでも意味がないことから。

青菜に塩



急に元気をなくして
しょげているさま

由来:青菜に塩を振りかけると水分が出てしおれてしまうことから。

山椒は小粒でも ぴりりと辛い



からだは小さくても優れた
気性や才能があり、侮れ
ないこと

由来:山椒は見た目が小さくても非常に辛いことから。

丸い卵も切りようで四角



やり方や言い方によって円満
になることもあれば、角が立つ
こともある

由来:同じ卵でも、切り方によって丸にも四角にもなることから、やり方や言い方に注意しなければならないという教訓。

鯛も一人はうまからず



食事は誰かと一緒に
食べるのがおいしい

由来:鯛のようなご馳走でも、一人で黙って食べるのでは、さほどおいしくないことから。

へそで茶を沸かす



あまりにおかしくて笑わず
にはいられないこと

由来:お腹が痛くなるくらい笑うと、おへそのあたりがお茶を沸かせるくらい熱くなることから。

ことわざと慣用句の違い



「ことわざ」と「慣用句」はどちらも昔の人の知恵がつまったものです。一般的に慣用句は二つ以上の言葉を組み合わせて、【甘いものに'目がない'】など、元の言葉とは全く別の意味で使われます。

慣用句はことわざのように教訓を含まず、日常的な出来事を比喩的に表現したものです。



ことわざクイズ

次のことわざの意味は何でしょうか？

「濡れ手で粟」

- ①いくら努力しても実らないこと
- ②苦労せずに多くの利益を得ること

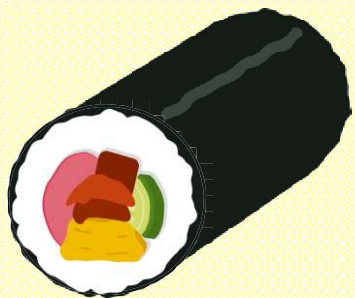


【答え】②

粟は小さな雑穀。濡れた手で粟をつかむと濡れた部分にも粟がついてたくさん取れることからきています。

日本のことわざは平安時代に誕生したと言われています。また、ことわざは日本だけではなく、世界中にあり、日本と同じ意味をもつものや、英語を日本語に訳してできたものもあります。こどもと一緒にことわざの絵本を読んだり、ことわざかるたで遊んでみても良いかもしれませんね。

せつぶんに たべる たべものだよ
なまえを しっているかな？



「えほうまき」だよ

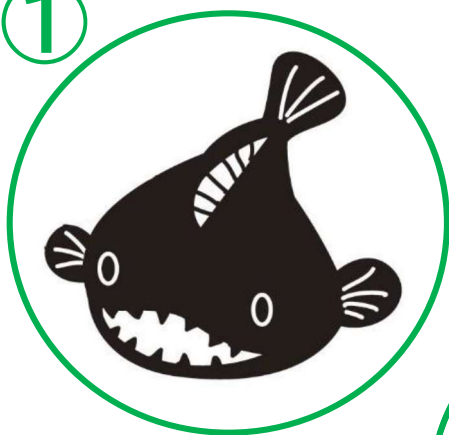


かみさまがいる ほうがくを
むいて たべるといいよ

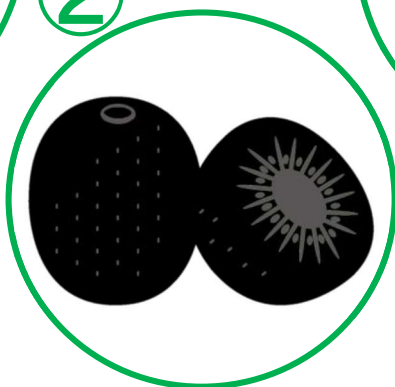
たべもの しるえつと くいず

「この たべもの なあに？」

①



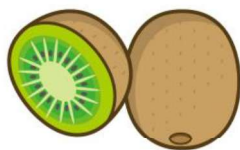
②



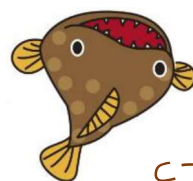
③



③えび



②きい



①あひ
<こたえ>